

ラ フォレ セ ラ ヴィ ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !



明るくて逞しい市場の女性たち。(2011 年)

現地の皆さんに励まされて

昨年、現地は大変な一年となりました。コロナ禍という条件は日本と同じですが、加えて治安の悪化が顕著でした。武装集団による村落襲撃は頻度を増し、年終盤には「緑のサヘル」が活動を行なっているコングシ地域に隣接する 2 つの地域が襲撃を受けました。このため、住民は緊張に満ちた生活を送らざるを得ませんでした。

また、昨年は降雨不順のため、穀物収穫が不作となってしまいました。そのため、どの家の倉庫にも備蓄がほとんどない状態です。そして今年に入ってすぐ、一部兵士によるクーデターが起き、乾季を迎えた現在の気温は 40℃に達しています。

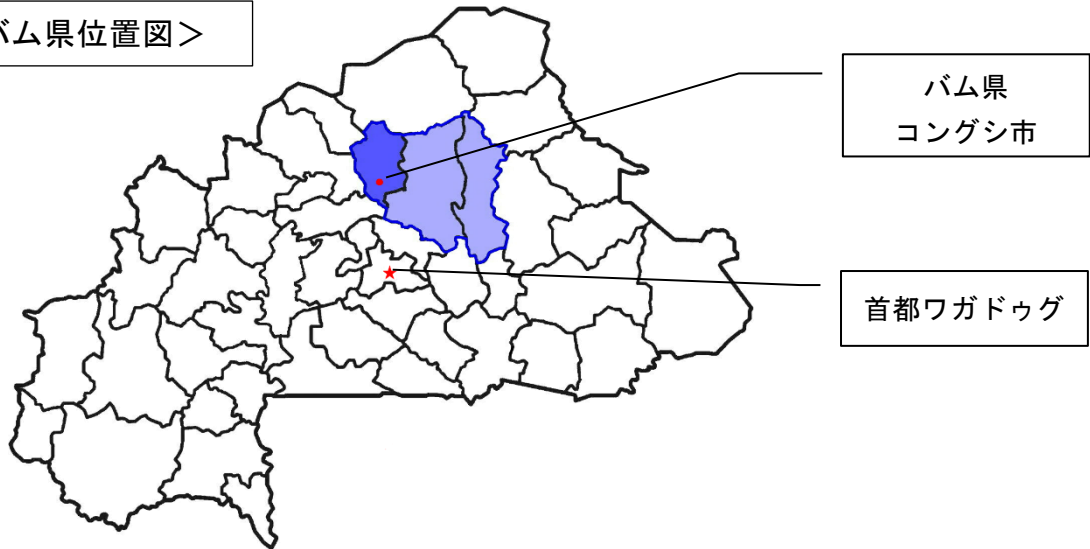
あまりに多くの問題に思わず悲観的になってしまいそうですが、それでも現地の皆さんは希望を失うことなく、日々の営みを続けています。市場には様々な野菜や果物が並び、多くの人々が行き交っています。村々には湖から水を汲み上げるポンプの音、資材を運ぶロバや牛の鳴き声、水やりや収穫を行なう女性たちの笑い声が溢れています。

「落ち込んでいても何も変わらないからね」「時間がもったいないよ」「凹んでいる余裕なんかないのよ」と口々に言いながら笑う女性たち。心から敬服せずにはいられません。国内での活動を振り返ると、どうにか最低限のことは出来たものの、とても現況に適應出来たとは言い難く、何かと反省の多い一年でした。それでも今、こうした現地の皆さんの明るさや逞しさに励まされ、気持ちも新たに活動に向き合おうと考えています。どうぞ皆さん、今年もよろしくお願いいたします。

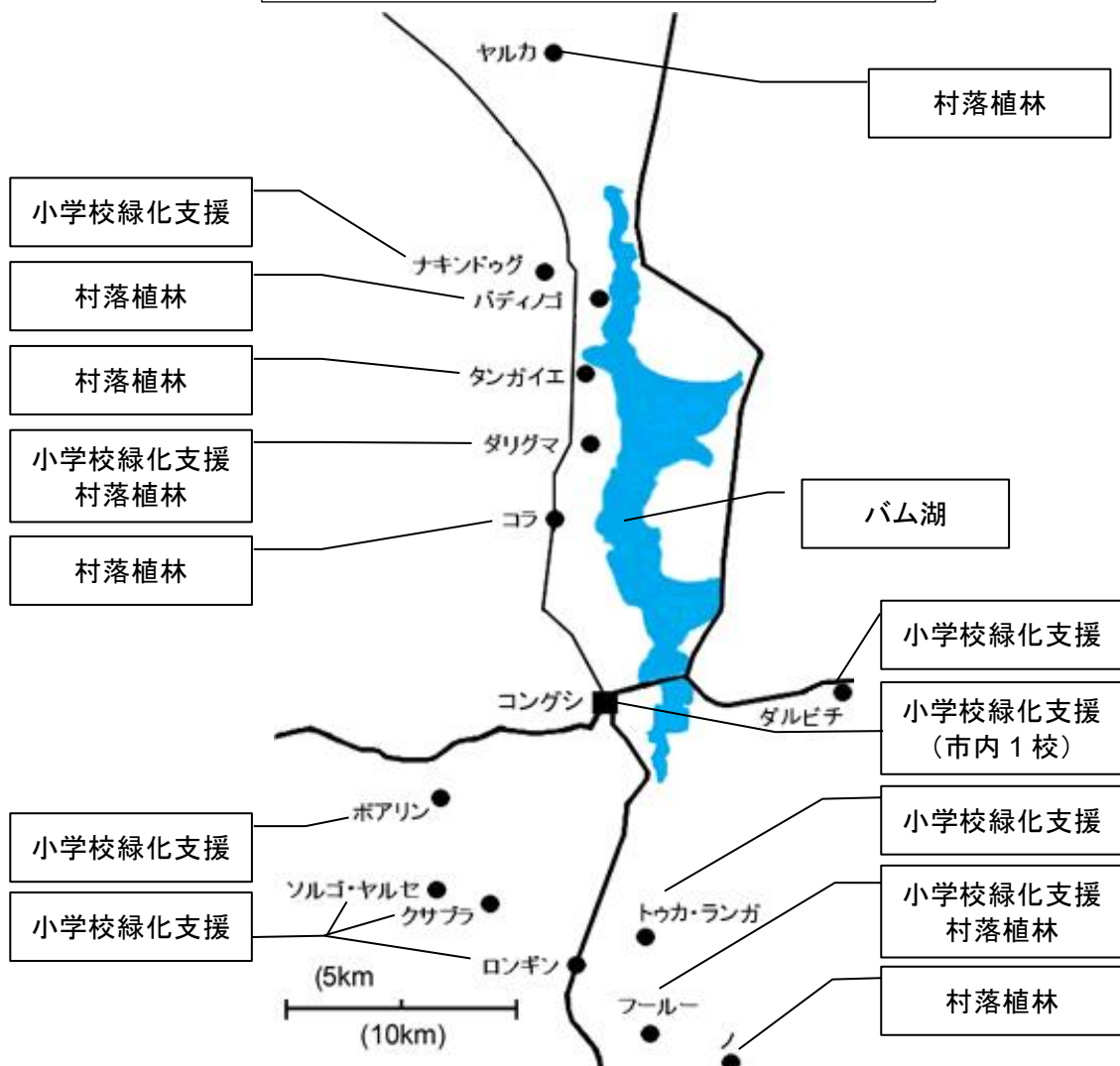
緑のサヘル 事務局長 菅川拓也

ブルキナファソの活動地域図

<バム県位置図>



<バム県コングシ地域活動実施村位置図>



ブルキナファソから 1



2月下旬現在、アフリカにおける新型コロナウイルス感染者の累計は、約 11,500,000 人（死亡者約 250,000 人）となっていますが、新規感染者は減少しつつあり、オミクロン株による第 4 波はピークを越えたと見られています。活動現場のコングシ地域では、感染者は確認されていません。

小学校緑化支援

以前お伝えした通り、現地協力団体の叙勲や 2 年連続の新聞掲載によって、各校の取り組みもより活発になっています。昨年 7 月 1～3 日に行なわれた苗木植栽（450 本）には、前年の 586 名を越える 664 名が参加しました。現在、現地は乾季の只中にありますが、猛暑の中、子供たちによる懸命な灌水作業が続けられています。4 月には苗木の植栽と後管理に関する「評価調査」、5 月には「成績発表会」が予定されています。



ソルゴ・ヤルセ小学校の生徒たち。2～3 人ずつのチームになって灌水作業を行ないます。

学校名	男	女	計
リウドゥグ	27	24	51
ボアリン	32	40	72
ソルゴ・ヤルセ	38	33	71
クサブラ	28	31	59
ロンギン	32	29	61
フルー	40	23	63
トゥカ	26	32	58
ダルピチ	41	34	75
ダリグマ	39	25	64
ナキンドゥグ	34	36	70
計	337	307	644

村落植林

昨年 11 月 21・22 日、6 村において計 4,700 本の苗木植栽が行なわれました。こちらでも「小学校緑化支援」同様、前年の 263 名を大きく上回る 410 名の住民が参加しました。現在、食害防止柵の整備や灌水作業が続けられています。

村名	男性	女性	子供	計
バディノゴ	61	26	39	126
ヤルカ	38	25	25	88
ダリグマ	29	15	26	70
コラ	20	7	10	37
フルー	17	10	14	41
ノ	20	6	13	39
6 村	185	89	127	410



植栽には女性や子供たちも多く参加しました。

ブルキナファソから 2



クーデター発生について

現地の治安悪化については、これまでもお伝えして来ましたが、去る 1 月 23 日、とうとう一部兵士によるクーデターが起きてしまいました。現在、大統領ならびに首相の安否は不明で、拘束が続いているとの情報も入っています。

兵士たちは「テロ組織と闘うための装備の拡充」、「負傷兵士の治療環境の改善」、「軍幹部の交代」を要求して蜂起し、既に暫定政権を発足させています。この背景には、政府のテロ対策が長年にわたって成果を出せず、一般市民および兵士に多くの犠牲や被害を出し続けていたことがあります。また、政権転覆を謀った容疑で兵士 11 名を逮捕（16 日）、政府への抗議デモで一般市民数 10 名を逮捕（22 日）等、政府の強硬姿勢が原因の一つになったとの見方もあります。

国連・国際機関、各国政府からの非難が集まっていますが、一般市民の多くはクーデターの発生を予期しており、「大統領拘束の報が流れると、街のあちこちから歓声が上がった」、「翌日には軍を支持する市民集会が開催」との報道もあります。これは、以前から軍に対する同情論が多かったこと、兵士たちの要求が理にかなっていたこと、蜂起に際して人的殺傷を行っていないこと（ただし大統領・首相については不明）が、一般市民の支持に繋がったものと思われます。

現在、状況は落ち着いており、現地の協力団体からも「いずれの町でも自由が確保されており、平常な生活が続いている」、「多くの国民が何の懸念も持っておらず、新政権への期待は大きい」との連絡が入っています。

チャドから



各家庭の食料備蓄が不足しています。



価格が高騰しているモロコシ。

昨年起きた大洪水と疾病、不安定な情勢とそれに伴う人口移動の影響で、各家庭の食料備蓄が不足しています。そのため、東部ではモロコシの価格が 25%～36% も高騰し、これを受けて政府は穀物輸出の禁止に踏み切りました。

スーダンとの国境周辺では牧畜民と農耕民による土地争い、チャド湖周辺では水位上昇による住民移動等も発生しており、なかなか安定した食糧生産が行えない状況が続いています。

国内活動



今期は、岩手県内の数校で2年ぶりとなる対面講演を実施したほか、京都精華大学の講義（清水貴夫准教授との対談）の撮影と配信、ニュースレターNo.88の作製・発送等を行いました。2022年カレンダーの発送もあり、多忙な毎日が続きました。

< 国内の主な活動一覧 >

2021 年				
11 月	8 日(月)	一関市立 東山中学校	(2 年生 45 名)	講演
	9 日(火)	盛岡市立 仙北中学校	(2 年生 217 名)	講演
	10 日(水)	滝沢市立 滝沢東小学校	(5 年生 58 名)	講演
	11 日(木)	盛岡市立 見前南中学校	(2 年生 120 名)	講演
	14 日(日)	盛岡支部 報告会	(一般・教員 8 名)	報告・質疑
	15 日(月)	盛岡市立 黒石野中学校	(2 年生 145 名)	講演
	17 日(水)	盛岡市立 下橋中学校		講演および
		「エコシンポジウム」	(1～3 年生 245 名)	パネラー
12 月	8 日(水)	ニュースレター No.88	発送	—
2022 年				
1 月	4 日(火)	仕事始め。カレンダー、T シャツの発送等		—
	13 日(木)	京都精華大学 国際文化学部		対談・配信
		「フィールドワーク概論」		

岩手講演について

この2年、コロナ禍を鑑みて講演は全てデータを視聴していただくという方法が続けて来ました。しかし昨年終盤、全国的に感染者数が激減したことを受けて、各校と検討した結果、演者（菅川）の「ワクチン接種記録」、「PCR 検査 陰性証明書」の写しの提出、体育館等での十分な距離の確保、マスク着用での講話を条件として、対面での講演を行なうことになりました。

講演は、5 中学校・1 小学校で行なわれ、下橋中学校では全校生徒の環境への取り組みを話し合う「エコシンポジウム」で基調講演とパネラーを務めさせていただきました。

また、「盛岡支部」が主催した報告会では、現地の政情と治安、コロナ禍、食糧等の現状を紹介した後、2021 年度の活動と 2022 年の見通しについての説明を行ないました。

いずれも2年ぶりの対面ということで、熱のこもった活気に満ちた集いとなりました。



盛岡支部報告会では、現地の平穏を願う声が多く出ました。



「緑のサヘル」の講演を聞いて

前頁でお伝えした対面講演の後、各校の皆さんから多くの感想文をいただきました。いずれの文章にも前向きな思いが綴られており、心打たれると同時に、とても励まされました。抜粋になりますが、以下にその一部をご紹介します。

小学生の皆さん

- ・外国には日本と同じような生活ができない国があることが分かりました。みんな平等な世界で生きられるように、身近に手伝えることがあったら進んで取り組みたいです。
- ・私はこれから節水や食べ物を大事にしてすごしたいです。そして、学校でたくさん勉強して、いつかアフリカの人たちの力になれるようにしたいです。
- ・私たちにとって「当たり前」のことが、アフリカの人たちにとって「当たり前」ではないことを知りました。これからはアフリカの人たちのために、自分ができる精一杯のことをやって行きたいです。
- ・世界中でこまっている人々、学校に行けない子供たち。そんな人たちの協力者として、私たちががんばって未来に進んで行きたいと思いました。
- ・自分が生まれていない時に、日本も苦しい生活をしていたと聞いてびっくりしました。この話を聞いて、この国、この世界に役立てることをしたいなと思いました。

中学生の皆さん

- ・一人一人が少しずつがんばれば、大変な思いをする人を減らすことができます。もっと世界に関心をもち、ボランティアに積極的に参加して行きたいです。
- ・生きていることはとても素晴らしいこと。生きているだけで素敵なこと。そんな、生きるために一生懸命な人になりたいと思ったし、自分の命も周りの命もとても大切にしなければいけないと思いました。
- ・今行なっている取り組みが私達の世代で目に見える形になるとは限らないけれど、今後の世代の人に私達の思いを受け継いでもらえるよう、まずは正しい知識から身につけて行きたいです。
- ・日常の中での行動を意識するだけで少しでも世界につながるのであれば、家でも心掛けて行きたいと思いました。私達ができる身近な活動の中で、緑のサヘルや世界に貢献出来たらいいなと思います。

皆さん、心がこもったご感想、本当にありがとうございました！

ありがとうございました

* 敬称は略させて頂きました。

【 会員の皆さま 】

天野洋子／杉本和／福川佐代／高橋聖子／野々山富雄／佐賀明子／中村洋
那口真理子／加藤和雄／加藤正好／竹内信／手嶋康／金井晶子／野口鉄雄
本多れい子／竹越久美子／宮田春夫／本所稚佳江／柏原竜一／木嶋美加子
矢野友一郎／大久保久美子／佐々木順平／山田高司／援助修道会

他 匿名をご希望の方 1 名

【 ご寄付を頂きました 】

中久保慎一／伊藤雄高／大和由利子／今井奈津子／武藤彰子／浅井賢太郎
土蔵愛子／戎綾子／加藤文子／青山初穂／松岡亜湖／森田康子／中川昭一
畠山暁子／大久保久美子／竹内知恵子／内記悦子／梶野修平／野々山富雄
中西利果子／太田弘子／松木恵子／井上るみ子／高橋菜々子／徳永由希子
奥田勇生／氏岡治代／村上和代／葛原睦子／須藤さい／田中順子／石毛弘
宮田春夫／宮本秀子／田中ちえ子／佐藤郁子／手嶋康／増岡一樹／澄田静
小笠原弘子／勝間朋子／桜井より子／高木真味子／岩永孝子／佐久間典子
木嶋美加子／田村典子／高田日出男・恭子／西村豊子／矢部弥生／伊藤良三
飯原久仁子／太田宜子／個別教育フォレスト 安多秀司／岩手プロジェクト
援助修道会／盛岡市立下橋中学校／稽古場風 堀籠貴子／(株)TABIZ
かみひとねっとわーく京都〈事務局〉蛸名建仁・加奈子

他 匿名をご希望の方 2 名

【 古本チャリティ募金を通じてご寄付を頂きました 】

浅輪哲司／村上和代

【 ハガキ・切手・商品券・図書カードなどをいただきました 】

佐藤京子／伊藤敬子／飯原久仁子／村上和代／佐々木順平

上記は 2021 年 11 月 1 日から 2022 年 1 月 31 日までにご支援頂いた方、また、
それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、2 月 1 日以
降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。

【 協力団体・助成団体 】

アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会／トヨタ自動車(株)
(公財)毎日新聞東京社会事業団／(株)ブギ／国際ソロプチミスト大阪-中央
(特活)環境アリーナ研究機構／(一社)環境メディアフォーラム
LIFULL ソーシャルファンディング／アフリカ料理トライブス
ソフトバンクつながる募金／(特活)国際協力 NGO センター

【 写真を提供しました 】

(株)帝国書院 高校用公共・現代社会資料集「ライブ！」(2022年改訂)
杉並区立消費者センター 家庭科副読本「くらしと消費」(2022年改訂)

「緑のサヘル」からお知らせ

ご支援をお願いします！

● 会員を募集しています！



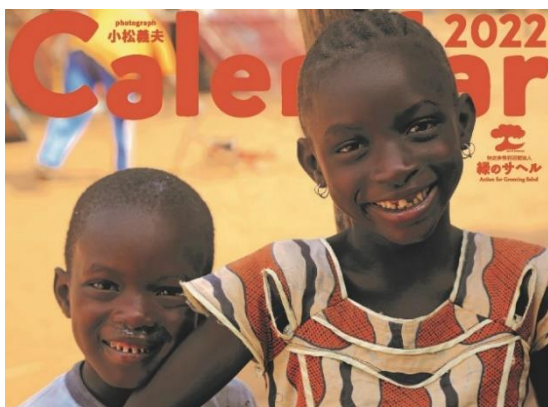
「緑のサヘル」を恒常的に支えて下さいますか？
年会費は、団体賛助会員 50,000 円、個人賛助会員 10,000 円、学生会員 5,000 円です。
会員になって下さった方には会員番号を通知し、当団体のニュースレターと年次報告をお送りします。

● ご寄付を募っています。



「緑のサヘル」は、多くの方々の支えによって活動を続けられています。もちろん、いくらからでも OK です。どうぞ、貯まった小銭や臨時収入のお裾分け等々、「緑のサヘル」にお託し下さい！生徒会や有志による募金も、大事に大事に使わせていただきます。

緑のサヘル カレンダー



西アフリカの人々や風景が身近に感じられると大好評の「2022 年 緑のサヘル オリジナル・カレンダー」、若干ですが在庫があります。

まだご注文いただけますので、ご希望の方は事務局までご連絡を下さい。

【 もくじ 】

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1・・・表紙 | 5・・・国内活動 |
| 2・・・ブルキナファソ活動地図 | 6・・・事務局より |
| 3・・・ブルキナファソから 1 | 7・・・ありがとう |
| 4・・・ブルキナファソから 2 | 8・・・お知らせ |
| チャドから | |

● 書き損じハガキや未使用切手を集めています。



国内での活動には、ハガキや切手も必要です。未使用の切手は、そのまま使わせていただきます。
書き損じハガキは、1 枚 5 円の手数料で同額のハガキか切手、レターパック等に換えることができます。その結果、現地の活動費を増やすことができます。

< 編集後記 >

NGO は人との交わり、繋がりが命と言えます。それがコロナ禍以降、人と会う機会がすっかり減ってしまって…。イベントは中止となり、ボランティアさんたちの来訪も制限せざるを得ませんでした。2 年ぶりに出来た対面での講演、相手の表情や仕草を直接見ながら話したり、笑ったり。本当に楽しく、充実したひと時でした。これも失われて初めて実感出来る幸せだったのですね。（事務局）

La Forêt, C'est la Vie !

Vol.89

編集 緑のサヘル 東京事務局 / 印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 (特活) 緑のサヘル ホームページ: <http://sahelgreen.org/> E-mail: agsj_tokyo@sahelgreen.org

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 16 番地 N A S ビル 3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041